

海藻資源の循環により結ばれる地域づくり事業

【海洋資源の循環により結ばれる地域づくり事業共同体、鳥取県水・大気環境課、島根県宍道湖中海推進室】

取組の背景

平成23年から海藻回収およびシステム循環構築事業を行い、漁師・NPO・福祉法人・農家が協働し、循環システムの構築をめざしている。

漁協とともに海藻を伝統的手法で回収し、水質への負荷を軽減させるとともに、土壌改良剤として農業に利用する体制ができつつあるが、確立に向けて行政機関を含めた、更なる連携の必要がある。

事業概要

本事業では、生態系に配慮する伝統的な手法で海藻を刈取り、海藻資源を農業に利活用することで、持続可能な社会の構築、またそれらを通じた地域づくりを目指す。

そのために、海藻回収による中海や地域の環境改善に向けた効果、また、障がい者が自然再生に携わる効果を社会的に評価する。さらに、多様な立場の人々が携わり、住民が参加できる仕組みを企画することで地域づくりをめざす。

実施団体と行政それぞれの役割分担

- 自然再生センター：農家へのPR事業、障がい者支援のPR事業、寄付金アップのためのPR事業
- 養和会F&Y境港：藻刈りの事業
- 鳥取県：環境教育のPR事業
- 島根県：観光とのタイアップのためのPR事業

主な事業内容

民間と島根・鳥取両県の行政が課題解決の為、事業策定の段階から協働し、互いの立場を超えたモデル的事業に挑戦する。

成果目標を設定し、自らの事業費を生み出す工夫などを全国に発信し、立場・県域を超えて中海周辺地域が一体となった取り組みを確立させる。

- 農家へのPR事業
- 環境教育のPR事業
- 寄附金UPへのPR事業、普及啓発のDVD作成
- 障がい者支援のPR事業
- 観光とタイアップのためのPR事業
- 藻刈り事業
- 調査、研究(科学的根拠の追究)

事業の主な成果

- 普及啓発のため農家への実践的肥料の説明会開催 (5回、参加者のべ150名)
- 藻ガールPRのためのDVD作成
- 島根県エコツーリズムへの登録
- 藻刈り参加者に対しアンケートを実施し、今後の事業実施に係る改善に役立てた。
- 平成30年度からNPOの自主事業として展開

工夫・ノウハウ

- 関係者は立場が違うが協働して目的を達成するという事に納得する。
- 関係者が共通認識をもち、目標を共有する。
- 役割分担を明確にする。
- メールと電話を使い分ける。
- お互いのイベントにはなるべく参加する
- 経済だけの循環を考えない(自然循環、人の関係性の循環)。
- 自然再生、自然環境をつかっての次世代育成に行政も参加していただいた。その手段の一つがこのオゴノリ循環型システムという結果を共有した。

今後の活動方針

平成30年度以降は、本事業は自然再生センターが自主事業として展開する(セブンイレブン記念財団からNPO自立支援事業として助成決定400万円×3年間)。協働は継続していく。また、本事業で得た実績等は、宍道湖での次なる事業への発展となるよう引き続き情報交換を図りたい。